

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

トップに立つ人は「マッチ」を持っていること 永守 重信（日本電産会長兼CEO）

1. 上に立つ人間に必要なのは、人の心をつかむ力、人心掌握力が全てです。そのためには、人を引き付ける何ともいえない人間性を持たないといけないでしょう。人を動かすには感情と冷酷のバランスが必要です。世の中には「ほめて育てよ」と言う人がいますが、それで立派な人が育つなら世の中悪い人は出てこないでしょう。叱るときは叱って、ほめるときはほめる。そのバランスが大事です。
2. それから、学歴とか社歴とか、そういったことに関係なく皆を公平に扱うこと。一人一人の実力をしっかり評価してあげることが重要です。もう一つ、トップに立つ人に必要なのは、自分を燃やし社員の心に火を付ける「マッチ」を持っていること。つまり自分の情熱、やる気を、周りに伝えて社員を燃え上がらせることができる人こそ、リーダーなのです。
3. そもそも全体の8割の人は「マッチ」を持って世の中に出てきます。でも途中で「マッチ」が湿ってしまうのです。最終的に乾いた「マッチ」を持つ人（リーダー）は、100人中3人くらいしかいません。ただ、持っていた「マッチ」が湿ってしまった人は、誰かが「マッチ」を擦って火を付けてあげれば燃えることができます。ここにリーダーの役割があります。

（参考：「週刊ダイヤモンド」2019年10月26日号）

経営者のための危機管理

「大廃業時代」幕開け

（向こう1年で31万社が存亡の危機）

1. 日本の中小企業のおおむね5社のうち1社が「1年以内に廃業する危機」に陥っている。（帝国データバンク）。全国140万社の詳細な企業情報を同社が独自で分析した結果だ。危機に瀕している中小企業は全国31万社に上る。
2. 「大廃業時代」という言葉が一般に広まったのは2017年秋のこと。経産省が試算した資料には深刻な数字が並んでいた。2025年には、70歳を超える中小企業の経営者が全体の6割を超える（約245万人）に達する。このうち半分の約127万人が「後継者が未定」の状態になる。経産省はその結果、中小企業の3分の1が「廃業予備軍」になると予想した。それに伴う日本経済への影響は大きく、計算上は2025年までに累計で約22兆円のGDPと約650万人の雇用が失われるとはじいた。

（参考：「日経ビジネス」：2019年11月25日号）

人事・労務について

日本人に読んでほしい三冊の古典

数土 文夫（JFEホールディングス名誉顧問）

1. いまは学歴の高い人より、むしろ学歴の低い人のほうが企業家として成功しています。それは、失敗を認めない受験勉強で勝ち上がった高学歴の人よりも、挑戦する気概にあふれているからだと思います。土光敏夫、松下幸之助、石坂泰三、本田宗一郎。こうした人々の自律心、そしてそれに基づく国家観、歴史観、倫理観というのは、若い時から厳しい環境の中で挑戦を続けてきたことを通して養われたものです。
2. 私は、日本には中国に勝る古典があると思っています。それは内村鑑三の「代表的日本人」と、新渡戸稲造の「武士道」と、福沢諭吉の「学問のすゝめ」です。いずれもわずか百年余りに発行された本ですが、この三冊は日本が誇るべき古典として、いまの日本人に読んで欲しいです。

（参考：「致知」2020年1月号）

古典に学ぶ

社会から儲けさせてもらっている

（解説）今時の富豪はとかく引込思案ばかりして、社会の事には誠に冷淡で困るが、富豪といえども自分独りで儲かった訳ではない。言わば社会から儲けさせてもらったようなものである。もし富豪が社会を無視し、社会を離れて富を維持しようごとく考え、公共事業、社会事業のごときを捨てて顧みなかったならば、ここに富豪と社会民人との衝突が起こる。

（参考：渋沢栄一「論語と算盤」：国書刊行会）